

# 奥越豪雨 50年 防災講演会



写真：徳山白谷大崩壊

過去の災害から学び、  
備える

## プログラム

(事情により変更の可能性があります。)

13:30 ~ 開会

14:00 ~ 奥越豪雨の紹介

越美山系砂防事務所

14:10 ~ 土砂災害から身を守る

岐阜大学名誉教授  
木村 正信 氏

15:30 ~ 災害経験者の体験談

田中 正敏 氏 (元坂内村長)  
所 和徳 氏 (元根尾村長)

16:00 ~ 大規模土砂災害への対策

越美山系砂防事務所長  
伊藤 誠記

16:30 ~ 閉会

(一社) 建設コンサルタンツ協会の CPD 認定プログラムです。  
プログラム番号：201512030006

平成 28 年 1 月 20 日 (水)

13:30~16:30 (開場 13:00)

会場：揖斐川町地域交流センター 多目的室 1  
TEL 0585-22-1120 ※旧中央公民館西隣  
(揖斐川町上南方27番地7 駐車台数 70台)

※駐車台数に限りがありますので、お乗り合わせのうえお越し下さい。

入場無料：事前申込不要 (定員：150名)

※当日、定員に達した場合にはご入場いただけない場合があります。

問い合わせ先：越美山系砂防事務所 総務課  
TEL 0585-22-2161

主催：越美山系砂防事業推進協議会  
越美山系砂防事務所

# 奥越豪雨とは

昭和40年9月14日から15日にかけて台風23・24号に刺激された前線の集中豪雨により、揖斐川上流域の徳山では総雨量1,211mmを記録し、福井・岐阜県境の能郷白山を中心とした地域は、総雨量1,000mmを越す雨量域となりました。これにより、揖斐川上流域の旧徳山村、旧藤橋村や根尾川上流域の旧根尾村の各地では、山崩れや河川の氾濫、土砂が本・支川の河道に堆積するなど大災害をもたらしました。中でも徳山白谷と根尾白谷では大崩壊が発生しました。また、災害その後も、揖斐川上流地域は、度重なる災害に見舞われてきました。



昭和40年災害 / 東前ノ谷土砂流出 (揖斐川町藤橋)



昭和50年災害 / 友谷の土砂災害 (揖斐川町坂内)



平成18年 / 東横山地すべり (揖斐川町藤橋)

## 登壇者ご紹介



### 岐阜大学名誉教授 / 木村 正信 氏

昭和24年8月25日生まれ(66歳)  
昭和51年3月、北海道大学大学院農学研究科修了。  
平成5年7月岐阜大学助教授(農学部)、平成16年4月同大応用生物科学部助教授、平成20年10月同大応用生物科学部教授。平成27年3月退職。  
農学博士(北海道大学)。砂防学会、日本森林学会、

日本緑化工学会などに所属、砂防学会インタープリント委員会委員長、砂防学会理事などを歴任。学会活動において、学会の発展、国際交流に尽力。また、岐阜県はもとより、中部地方の土砂災害防止と適正な森林環境の保全に貢献。

### 越美山系砂防事務所の紹介

揖斐川流域には、濃尾大地震の震源地(根尾村水鳥)「根尾谷断層」に代表されるような断層がいくつもあり、脆くて弱い地質となっています。

昭和40年9月の豪雨(奥越豪雨)では水源山地から約4,500万m<sup>3</sup>もの土砂が流出して河道に堆積し、その後の降雨により崩壊が拡大することや、下流の集落、耕地、道路などに対する脅威、横山ダムの治水機能の保持等、国土保安上抜本的な対策を講ずる必要が生じました。そこで、土砂災害から皆さんの安全な暮らしを守るため、昭和43年より直轄砂防事業を行う越美山系砂防工事事務所が発足し、現在に至っています。



みっちゃん



### 田中 正敏 氏 (元坂内村長)

昭和17年1月18日生まれ(73歳)  
旧坂内村商工会に経営指導員として勤務。平成3年から平成10年まで2期8年旧坂内村村長。現在は、坂内観光協会会長。昭和34年の伊勢湾台風の際は、消防団員として行方不明者捜索。



### 所 和徳 氏 (元根尾村長)

昭和9年6月23日生まれ(81歳)  
昭和40年より旧根尾村職員として勤務、平成12年から平成16年までの旧根尾村最後の村長。現在は、もとす郡森林組合長。昭和40年の奥越豪雨の際は、役場職員として宿直勤務。

### 公共交通機関をご利用の方

養老鉄道[揖斐]駅を下車し、コミュニティバスに乗り換え

- ① 揖斐川北部線(川上・広瀬・横山診療所・東津波・本揖斐方面) [中央公民館前]バス停下車 徒歩5分
- ② 他のコミュニティバス路線の[揖斐川町役場]バス停下車 徒歩9分

### アクセスマップ

